

vol. 18
2013年
9月



江戸川区
聞き書き
研究会

聞き書き研究会とは、江戸川区で生活し、江戸川区を愛し、強く逞しく生きた女性の姿を江戸川区女性センターの区民ボランティアが「聞き手」となって編集し、文書として残すための活動です。

「自分を信じて」 - 102歳の画家 -

こしばちえこ
小柴千枝子

1910年(明治43年)
千葉県房総市生まれ
中葛西在住



■ 春は風景

春は風景。アネモネは3月までだからね。桜は4月だけど、桜は油絵にならない。季節にあった絵の描き方をやらなければ。

師範学校で週2時間、水彩画と工作を5年間やりました。楽しみであり、はげしい勉強の合間の癒しの時間でした。師範学校4年生、18歳の時、先生がわたしの描いた水彩画を県の教職員展に出して、銀賞を取りました。この賞は大きな自信と励みに。いつか暇ができたら絵を描きたいと考えるようになりました。

生まれ育ったのは、千葉県安房郡丸山町(現南房総市)です。母は尋常小学校の教員でした。わたしが生まれたころ、託児所はありません。母は、勤め先にわたしと子守を連れて通いました。校長先生が「この子は将来が楽しみだから、しっかり育てなさい」と。おおらかな時代でした。

わたしたちきょうだい3人が小さい時、妹はよそに預けられていました。わたしは弟の面倒をみていました。遊ぶ道具なんて何もなくて、近くに膝までの浅い小川があって、弟を連れてドジョウとかフナとか捕りに行ってね。そういうのが遊びだったのです。

子どものころは白米。野菜を多く、肉はほとんど食べない。鶏を飼っていたから卵は少し、魚は売りに来るものを少し。隣のおばあさんが、雑穀の混ぜご飯をよく持って来てくれました。学問は無いけど聞いたことは忘れない、頭の良い人。だから、見るとわかるんだね。子どもが白米を食べていて、栄養が足りないのが、偉い人だよ。わたしの画集におばあさんの絵が出ていますよ。

父は千葉県師範学校の剣道部長でした。母は千葉県女子師範学校の出身です。1925年、数え15歳で、わたしも千葉県女子師範学校に入学しました。難しかったよ、試験。4日間、体力、筆記、そろばん、歌、最後に口頭試問。各市町村から代表ひとりどりで6倍の競争率。尋常小学校から高等小学校に進み、2年生の時入学試験を受けたの。小学5年生の時から家に帰ると1時間、その日勉強したことを覚えるの。毎日が勝負、毎日が試験勉強だった。

女子師範学校は40人ひとクラスだけ。寄宿舎で一緒

に生活し、勉強するの。卒業したときは33名。全員が、尋常小学校か高等小学校の教員になったの。

■ 夏は描かない

このごろ描いてないの。夏は制作できないですね。果物は描けば絵になるけど、3日ぐらいで新しくとりかえなければならぬから。

表現にもいろいろあります。人よりうまく表現したいと、発色の研究を続けてきました。花の絵のようにきれいな色の絵は喜ばれます。でも、色だけではないですよ。ひとつの画面が一体となって助け合い溶けあわねば。

わたし、師範学校時代に何度もからだを悪くしたの。「あなたはなぜ病気ばかりしているの」って、先生が怒るの。「寄宿舎の食事が悪いからですよ。肉、卵、魚がいつぱいで、野菜が少ないから、偏食になっている」って言ったの。わたしは、子どものころ、野菜とかしっかり食べて健康に育ったでしょ。だから、何が足りないか、食べた感覚でわかったのよ。

でも、けんかして出でたらおしまいだから、我慢した。将来栄養学を研究して、きちんと説明できるようになって、やり返してやるって考えた。卒業まで危なかったよ。病気で、授業を休んだり、田舎に保養でひと月帰ったり。田舎に帰っても、親が亡くなっていたから、自分で料理を作って食べたの。

父は、わたしが7歳の時、剣道の怪我がもとで亡くなりました。母は、わたしが師範学校3年の時、急死。40歳ですよ。過労で死んだのです。校長が尋常小学校の1年生の担任持たせてね、高等学校の家庭科まで、二重にやらせたの。母は優等生だから、人に反抗するってこと知らないから、無理をした。

20歳で教員になった時、卒業したての何もわからないわたしが、小学2年生の男の子50人の組を受け持たされた。学校で一番暴れる子どもたちでね。教壇まで出てきて、万年筆持って、外へ出てっちゃったの。授業中だよ。わたしも追いかけて取り返した。師範学校の先生に頼んで、別の学校に替えてもらいました。女だからって、馬鹿にされても、負けない。我慢しないようにしているんだ。

秋は果物と風景

秋はお花がないですね。少しはあるけどね。本当の花の絵は描けない。秋は果物と風景。果物は幻想的に描こうなんて駄目だから、そういうことは考えない。

教員時代、あまり絵は描かなかった。よっぽって教員の仕事をしたり、絵を描いたりしたらやり過ぎになるから。

結婚して、千葉県たてやまの館山に住んでいたの。その時の校長が「朝7時までに学校に来い。夜7時まで帰るな」って。5キロ離れた家からタクシーで通いましたよ。でも無理。2ヶ月でその小学校のそばに家を借りました。それでも無理。8ヶ月で辞めました。

30歳の時、息子と娘を連れて東京に出て、竹芝小学校の教員になりました。戦時中、荒川小学校にいた時は、福島県の会津若松に学童を連れて疎開しました。疎開から帰ってきたら、東京の下町は焼け野原。学校が無くなって、3ヶ月くらい無職。それで、学校が残っていた北多摩地域へ移りました。



◆1929年作「となりの人」
(隣のおばあさん)



◆1998年作「カサブランカ」

40歳の時、家庭科の免許を取りました。独学で栄養学や家庭看護法の勉強をしたの。尋常小学校5年の時、母に「家庭科の先生になる勉強したほうがいいよ」って言われたから。村山中学校の教員になったけど、生徒が暴れてすごい。辞めて練馬区の小学校へ戻りました。でも、経験が自分の生活に生きたからいい。小学校では、親たちに食べ物はこういうものを食べたほうがいいとか、自分が研究した栄養学の話をしたの。

母は、尋常小学校の1年生を10年間受け持ちました。子どもたちが入学を楽しみにするほど、とても評判の良い先生でした。「人間の優劣は成績で決まらない。自分に与えられた才能のうち、一番優れたものを活かして生きてゆけばいい」と。だから、わたしは母に習って、まず子どもの性質を理解する。それから優しい子、正直な子、積極性のある子に育てる。

わたし、子どもたちにちゃんと勉強するように段取りしました。家に帰ったら、運動不足にならないよう、まず外遊び1時間。そして勉強する。やらないと翌日困るように、宿題を毎日出したの。ちゃんとやってきたよ。親が「勉強しなさい」と言わなくても。わたしが1年から3年まで受け持つと良い子になるのですよ。わたしに受け持つてもらいたいと、親たちは神社にお参りに行ったらしいよ。先生たちも4年から受け持ちたいと大騒ぎしていた。

最後の大泉第二小学校では、「あの先生辞めさせないで」って。

2年おまけで62歳まで勤めたの。教員辞める時、医者が「身体が大変なことになっているから休まなくちゃ駄目だよ。生きてゆかれないよ」って。疲れてたんだね。

勤めを辞めてから芸大の桑原実先生の油絵講座を受けました。本を買って通信講座で勉強したの。実技指導もあって6年続けました。イタリア、フランス、スペイン、オランダの美術館見学、写生にも行きました。63歳から、個展をほぼ毎年開きました。

64歳のころ、ローマの大学で学んできた今道松久先生に、古典技法を教えてもらいました。日本ではほとんどやってないですよ。難しいからね。その後、画集も2冊出しました。賞もいくつか。スペインのブラド美術館から名誉総裁賞もらいましたよ。

冬も風景

冬も風景ですね。冬の絵は幻想的に描けます。でも、本当はうらぶれて寂しい。泣きたくなるような寂しい絵は描きたくない。見て楽しくなるような絵を描きたい。

わたしの絵は写実画ですね。現物を見て描く。イメージで描くというのは、慣れている人はできるでしょうが、結局でたらしめになりますから。景色だったら、写真じゃなく現場へ行って描く。函館には3回行きました。ハリストス正教会の油絵を江戸川区へ贈ったの。今は、葛西区民館に飾ってありますよ。

63歳の時から、ここ、中葛西に息子と住んでいたの。練馬区にいたけど、近くに青梅街道がある。こんな空気の悪い所にいたら死んでしまうと思ったから、空気の良い所に越した。もつと海の近くに行きたかったのよ。息子は去年死んじゃった。

89歳のころ、血圧が200に。それまで、白米と麦を炊いたもの、魚と野菜を食べていたの。それで、七分づき米と押し麦にして、1日2食。昼はパンかうどん。魚を3分の1にして、豆腐とか大豆食品を増やしたの。野菜は前と変わらず同じ量。3年で普通の血圧に下がったの。

七分づき米は消化悪くないですよ。でも、最初から玄米は無理ですよ。消化液が出ない。子どもの離乳食と同じ、「玄米離乳食」。3年くらい徐々に馴らして先に進めないの。

100歳の時、東葛西小学校の料理クラブに招待されました。子どもたちに食の大切さと栄養学の話をしたの。頼まれば、どこでも行きます。文章も書きますよ。

今年の春、関東第一高等学校が甲子園出場をきめたでしょ。高校に玄米粉を持って行きましたよ。江戸川区の学校だから、応援したいじゃない。

